

^{さくら}「^{わた}桜の渡し」^ごとその後^{はっ か ごうぜき}～八ヶ郷堰^{あし}の足あと～



^{こうちょうせんせい}校長先生と^こ子どもたちが^{あさ}朝のあい

さつを^か交わす^{こうもんふきん}校門付近には^{しせき}史跡「^{さくら}桜

^{わた}の渡し」の^{かんばん}看板と「^{はっ か ごうぜき の ひ}八ヶ郷堰之碑」

があります。

1. 史跡「桜の渡し」について

史跡「桜の渡し」

いま やくさんびやくねんくらいむかし げんなはちねん ねんごろ
今から約三百年位昔、(元和八年・一六二〇年頃)
やまがたじょうしゅ とりいたたまさ まみがさがわ
山形城主 鳥居忠政が馬見ヶ崎川がはらんして大ぜいの人が困っ
ていたので、川の流れを東原町の東岸でせきとめ、流れを変えまし
た。その頃の馬見ヶ崎川は、旧県庁前から、小橋・下条・皆川町
えまた じんばみなみ なが しょうがつこう きた しんでん よしのじゆくみなみ すしあらい
江俣・陣場南を流れ、ここ小学校の北を新田・吉野宿南を鮎洗に
むかい須川に注ぎました。

えまたぬま じんばぬま あと すかわ はし ふね
江俣沼・陣場沼は、その跡でした。その須川に橋がないので舟
で渡りました。今たっているところが、その船つき場で、太い桜
の木があったので、誰いうとなく「桜の渡し」というようになった。
その頃、大ぜいの人々が舟で渡ったことでしょう。
また、最上時代、山形城と中野城の武士たちが、この川をはさ
んでいくさをした戦場でもある。と伝えられています。

ここに植えてある桜は二世で、金井小学校創立七十七周年記念
日に、記念として植樹したのです。

しょうわ
昭和五十二年十一月一日

山形市立金井小学校

そうりつ きねん
創立七十七年記念

ぶんせき くまがいりんたろう
(文責 熊谷林太郎)

2. 「八ヶ郷堰之碑」について



八ヶ郷堰は、金井地区を流れる用水路である。この堰をかんがい用水に利用してきた集落が江俣・陣場・内表・陣場新田・吉野宿・中野・船町の八か所であったことから、八ヶ郷堰と名づけられた。

記念誌「八ヶ郷堰と土地改良区」によると「金井小学校前『桜の渡し』跡地に先人の遺徳を偲び『八ヶ郷堰之碑』を建立いたしました。」との思いが語られている。

「八ヶ郷堰」は400年の歴史を刻み続け、これまでの人々の苦勞と工夫が認められ、

2023年山形五堰の一つとして「世界かんがい施設遺産」に登録された。

* 「かんがい施設」・・・ 田や畑の作物を育てるために必要な水を引く目的で造られた用水路のこと

3.「じ どう よ う ね ん び ょ う児童用年表」について

その 1

ちいきがっこうきょうどうかつどう
地域学校協働活動

さくら

わた

はつかごうぜき

ねんびょう

こ がくしゅう

「桜の渡し」と「八ヶ郷堰」の年表（ほなみっ子学習）

さくせい しばた せいじ
2025.作成：柴田誠司

| せいれき 西暦 | われき 和暦 | にほんし 日本史 | かないちく できごと 金井地区の出来事 | しゅってん 出典 |
|--------------|------------------------|------------------|--|---|
| きげんぜん 紀元前 | | じょうもんじだい 縄文時代 | じょうもんじだい かない さと まみが さき がわ はんらんげん いち まみが さき がわ おううさんみやく 縄文時代、金井の里は馬見ヶ崎川の氾濫原に位置していた。馬見ヶ崎川は奥羽山脈の ぎおう さん がんど さん ささや とうげ みなもとはっ やまがなぼんち なが い こうだい せんじょうち けいせい 蔵王山・雁戸山・笹谷峠などに源を発し、山形盆地に流れ入ると広大な扇状地を形成 かないちく ほんりゅう すかわ そそ して、金井地区を奔流し須川に注いでいた。 | かない れきし 「金井の歴史」より |
| 1083 | えいほう みずのといどし 永保3癸亥年 | へいあんじだい 平安時代 | まみがさき めいしょう う しょせつ 「馬見ヶ崎」の名称が生まれる。＊諸説あり | はつかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1603 | けいちょう ねん 慶長8年 | え ど じだい 江戸時代 | もがみ よしあき まんごく まんごく りょうち ふ かない もがみけ りょうち 最上義光は24万石から57万石に領地が増えた。金井は最上家の領地であった。 | かない れきし 「金井の歴史」より |
| | | | もがみ じだい まみが さき がわ さん まるほり そば なが 最上時代、馬見ヶ崎川は三の丸濠の側を流れていた。 | やまがたしし べっさつせいかつぶんか へん 山形市史別冊生活文化編より |
| | | | いま こうもんふきん まみがさきがわ わた ぶね さくら わた い （今の校門付近には）馬見ヶ崎川の渡し舟があり、「桜の渡し」と言われていた。 | しりょうかない きょうどけんきゅうかいしせきめぐ 資料金井郷土研究会史跡巡りより |
| 1622 | げんな ねん 元和8年 | | もがみ やまがたはん かいえき 最上山形藩の改易。 | やまがたしし 山形市史 |
| | | | とりい ただまさ いわき やまがたじょうしゅ いふう 鳥居忠政が岩城から山形城主として移封される。 | やまがたし し 山形市史 |
| 1623 | げんな ねん 元和9年 | | まみがさきがわ だいこうずい いつかかん おおあめ おお ひがい 馬見ヶ崎川の大洪水。（5日間の大雨で大きな被害） | やまがたし し 山形市史 |
| 1624 | かんえい がんねん 寛永元年 | | とりいたたまさ こうずい しろ ほり まも まみがさき がわ りゅうろへんこうこうじ ちゃくしゅ 鳥居忠政は洪水からお城の濠を守るため、馬見ヶ崎川の流路変更工事に着手した。 | やまがたしし 山形市史 |
| | | | きゅうまみがさき がわ なが りょう はつかごうぜき やまがたご せき たんじょう 旧馬見ヶ崎川の流れを利用して、八ヶ郷堰をつくる。（山形五堰の誕生） | はつかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1636 | かんえい ねん 寛永13年 | | え またぬま じんばぬま ちくぞうかいし ねん かんりょう 江俣沼・陣場沼の築造開始。（12～13年かけて完了） | はつかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |

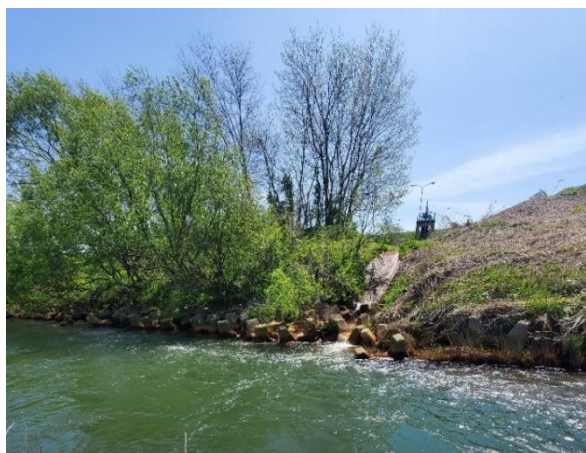
| | | | | |
|------|------------------|------------------|---|-------------------------------------|
| 1893 | めいじ ねん 明治26年 | めいじ じだい 明治時代 | まみがさき がわ ぶんすいず ご せき はいすしわりあい けんちょう ていしゅつ 「馬見ヶ崎川分水図」（五堰への配水割合）が県庁などに提出される。 | はっかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1957 | しょうわ ねん 昭和32年 | しょうわ じだい 昭和時代 | はっかごうぜき とち かいりょうく ほっそく 八ヶ郷堰土地改良区の発足。 | はっかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1966 | しょうわ ねん 昭和41年 | | えまたぬま じんばぬま うめたて せいび はじ 江俣沼・陣場沼の埋立と整備が始まる。 | はっかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1976 | しょうわ ねん 昭和51年 | | えまたぬま じんば ぬまあとち せきひ た 「江俣沼・陣場沼跡地」の石碑が建てられる。 | せきひ もじ 石碑文字より |
| 1977 | しょうわ ねん 昭和52年 | | かないしょう ぎょうもんま え しせき さくら わた かんばん せっち 金井小学校前に史跡「桜の渡し」看板が設置される。 | かないしょう がくゆうかい 金井小PTA・学友会 |
| 1988 | しょうわ ねん 昭和63年 | | じんば よしのじゅく ちくない はっかごう ぜきほんせき ふたか こうじ じっし へいせい ねんどかんせい 陣場から吉野宿地区内八ヶ郷堰本堰の蓋掛け工事を実施（平成4年度完成） | はっかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1993 | へいせい ねん 平成5年 | へいせい じだい 平成時代 | さくら わた あとち せんじん いとく しの はっか ごうぜきの ひ こんりゅう 「桜の渡し」跡地に先人の遺徳を偲び『八ヶ郷堰之碑』を建立する。 | はっかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 1994 | へいせい ねん 平成6年 | | はっかごうぜき とち かいりょうく もがみがわちゅうりゅうとちかいりょうく がっぺい ねん れきし まく お 八ヶ郷堰土地改良区が最上川中流土地改良区に合併し36年の歴史に幕を降ろす。 | はっかごうぜき とちかいりょうく 「八ヶ郷堰と土地改良区」より |
| 2023 | れいわ ねん 令和5年 | れいわ じだい 令和時代 | やまがた ごせき ひと はっかごうぜき せかい しせつ いさん とうろく 山形五堰の一つとして「八ヶ郷堰」も『世界かんがい施設遺産』に登録される。 | やまがたし のうそんせいびか しりょう 山形市農村整備課資料より |



陣場踏切付近・八ヶ郷堰の堰筋
(中部・追散水係)

4. ^{しやしん}「写真」について

- ① ^{すかわ}須川へ^{ごうりゅう}合流する^{ようすい}用水：^{はっか}八ヶ郷^{ごうぜき}堰の^{ようすい}用水は、^{かない}金井^{ちく}地区では^{すしあらい}鯰洗で^{すかわ}須川へと^{ごうりゅう}合流



- ② ^{だいき}大規模化^{ぼか}スマート化する^か米作り：^{こめづく}令和6年に^{れいわ}撮影した^{さつえい}元PTA会長^{もと}安達良一^{かいちょう}さんの^{あだちりょういち}



^{たう}田植えの様子^{ようす}（^{よしのじゆくほうめん}吉野宿方面）

③ ^{はっ か ごう ひ}八ヶ郷の碑：^{はっ か ごうぜき れきし こうせい つた ひ}八ヶ郷堰の歴史を後世に伝える碑は、^{へいせい もがみがわちゅうりゅう と ち かいりょうく}平成6年最上川中流土地改良区への



^{がっぺいきねん ふなまち きふねじどうこうえん}合併記念として船町の貴船児童公園に

^{こんりゅう}建立

④ ^{なな ばし せきひ じんばしんでん むかし ま み がさきがわ しりゅう}七つ橋の石碑(陣場新田)：昔、馬見ヶ崎川の支流にかかっていた七つの橋の唄がつくられ、^{なな はし うた}



^{しんでんなな ばしうたほぞんかい まも}新田七つ橋唄保存会が守ってきた

⑤ ^{すいでん}ほなみ^{た う}水田^{まいとし}での^{ねんせい}田植え^{おこな}：毎年5年生が行^{いなさくたいけんがくしゅう}う稲作体験学習



・^{れいわ}令和6^{あめ}年は^{なか}雨の中^{なか}でもがんばった

⑥ ^{かないしょうこうもんまえ}金井小校門前^{しせき}・史跡^{さくら}「桜^{わた}の渡し」^{はっ か ごうぜきの ひ}と「八ヶ郷堰之碑」



・^{れいわ}令和6^{ねん}年の^ち地区^{く たんけん}探検^{ようす}の様子

⑦ ^{じんばかいどう} 陣場街道 ^{せきすじ} の堰筋 ^{じんばぬまちか}：陣場沼近くの八ヶ郷堰は ^{はっかごうぜき} 生活用水や ^{せいかつようすい} 池の水にも ^{いけ} 利用された ^{みず} ^{りよう}

・写真 ^{しゃしん} は登録文化財 ^{とうろくぶんかざい} の田中邸 ^{たなかてい} を望む ^{のぞ}



⑧ ^{じんばおおぬま} 「陣場大沼」 ^{しょうわ} 昭和43年 ^{ねん} の写真 ^{しゃしん}：陣場瀬波会館 ^{じんばせなみかいかん} に掲示 ^{けいじ} されている



・溜井 ^{ためい} として利用 ^{りよう} されてきたが、後年 ^{こうねん} は魚釣り ^{さかなつ} などの憩い ^{いこ} の

場所 ^{ばしょ} にもなる

・現在 ^{げんざい} は「陣場杉 ^{じんばすぎ} の前 ^{まえ} 児童遊園 ^{じどうゆうえん}」や住宅地 ^{じゅうたくち} となっている

⑨ ^{せきひ}石碑「^{えまたぬまじんばぬまあと}江俣沼陣場沼跡」：^{じんばこぬま}陣場小沼のあったところ

- ・^{しょうわ}昭和51年^{ねんこんりゅう}建立、^{じんばかんのんどう}陣場観音堂の^{うらがわ}裏側にたっている



⑩ ^{えまたぬまあとち}江俣沼跡地「^{みなみえまたこうえん}南江俣公園」：^{えまたぬま}江俣沼のあったところ



- ・^{いけ}ひょうたん池が^{なごり}名残をとどめている

- ・^{しょうわ}昭和40年代、^{ねんだい}沼の^{ぬま}埋立と^{うめたて}整備^{せいび}